

佐世保市長 | 宮島大典

Daisuke Miyajima

今回お話をうかがうのは、宮島大典市長。懐かしい佐世保の街並みが浮かぶような市長ご自身の「文化」にまつわるエピソードから、新市長として描く佐世保の「文化」について語っていただきました。

— させぼ文化情報紙 —

文化の

チカラ

Vol.03

2024.1



Episode 1

思い出の市民会館

文化といえば、コンサートや市民の催しなど、当時、文化交流の拠点だった市民会館は私の庭みたいなものでした。(笑)というのも、近所に住んでいたんで、子供の頃は市民会館の駐車場は格好の遊び場で、よく野球をして遊んだものです。初舞台を踏んだのも市民会館で、幼稚園のお遊戯会でした。もちろんコンサートにも行きましたし、市民会館は思い出の場所です。



市長の文化



Episode 2

Rock'n' Roll!!

音楽は小さい頃から大好きで、ロックバンドを組んでボーカルをやっていたこともあります。当時はディープ・パープルやレッド・ツェッペリンが流行っていましたが、私はスティーヴィー・ワンダーなどのブラックミュージックが好きでした。歌うことは今も好きなんですが、最近カラオケには残念ながら行けてないですね。



Episode 3

映画出演!?

親が映画館を経営していたので、子供の頃から映画はよく観ていましたね。その関係で、実家が映画の撮影場所にもなりました。桃井かおりさんが出演されたロケ*で私も立ち会いましたが、実際使われたシーンは30秒程度でした。

*長崎出身の作家 内田春菊の自伝的小説の映画化「ファザーファッカー」



Episode 4

ディスコでフィーバー!

佐世保にもディスコが何軒があったのはご存知ですか？
ディスコ世代でしたし、音楽好きということもあって、よく出入りしてましたね。



文化部でなく運動部だったんですね・・・から始まったインタビューでしたが、市民会館、映画館、ディスコと、活気ある佐世保の街並みが思い浮かぶお話が次々と。佐世保の生活の側には、こんなにも文化があふれていたんだという改めての気づきと、それを謳歌されていた市長の青春を垣間見ることができた貴重な時間でした。

message



～ 市長が描く佐世保の文化～

いつも、いつ来ても楽しめる佐世保に!

まずは、文化レベルの底上げをしたいと考えています。市民のみなさんにとって、文化・芸術、ほかにもスポーツなど、そのレベルが上がることは、そのまま心豊かな暮らしに繋がってゆくものと思いますし、生活の中に〈文化〉が溢れる佐世保市にしたいと思います。また、観光客の皆さまには、いつ来てもイベントやお祭りが開催されている、そんな一年中楽しめる賑わいのある場所にしたいですね。「文化をチカラに!」佐世保市の新たなスタートに全力を挙げて取り組んでいきます。



第3号(令和6年1月発行) 年4回(7/1、10/1、1/1、4/1)発行

編集・発行

アルカスSASEBO(佐世保市、公益財団法人佐世保地域文化事業財団)

〒857-0863 佐世保市三浦町2-3 TEL 0956-42-1111 FAX 0956-24-0051 <https://www.arkas.or.jp>



文化のチカラ
公式Facebookページ

